

高校生との対話で探究が身近に

具体的イメージつかみ主体性増す

「高校生でも、ここまでできるんだと思った」「自分たちでも地域を変えられるかもしれない」。横浜市立希望が丘中学校（渡邊雅彦校長、生徒595人）は本年度、近隣の神奈川県立横浜瀬谷高校と連携した探究学習を開始した。高校生が中学校に出向き、共に地域課題を考える授業を実施したところ、生徒たちは探究をより身近な学びとして捉え始めた。年齢の近い先輩との対話が、生徒の主体性を引き出すきっかけとなっている。

神奈川県立横浜瀬谷高校と連携



高校生にアドバイスをもらいながら、各クラスで設定した研究テーマを掘り下げる

横浜市立希望が丘中学校

導入部で招き交流授業

取り組み聞き、テーマへの助言もらう

同校では本年度から総合的な学習の時間の中で「探究的な学び」をより充実させるために、近隣高校や企業との連携をスタート。背景には二つの課題があった。一つは、教員の間に「探究的な学びの上手な導入の方法を知りたい」という声があったこと。もう一つは、高校で実践されている探究を、より具体的には商売開発や地元で行われる

で、探究的な学びを身近に感じてもらうと考えると話す。

交流授業は2年生の各クラスで実施。授業の目的については、①高校生自身に今取り組んでいる「探究学習」の概要を説明してもらい、②クラスで既に設定している探究テーマを高校生にアドバイスしてもらいながら深めることと説明。

高校生は自分たちの活動内容を伝えつつ、「探究学習」と教科での学習の違いについて語り掛けることも、中学生が探究テーマを深められるように助言し

「自分たちもできる」意識変わる

授業後、4人の生徒に授業の感想を聞いた。生徒の言葉からは、交流授業を通じて探究的な学びに対する見

方が深まった様子がうかがえた。「高校生は僕たちと年齢が近いのに、社会で役立つ実践を行っていた。自分たちでもできそうなことだったので、とても現実味があつた」など、身近な学びであることを実感していた。

高校生も意義を再認識

また、別の生徒は「自分たちだけでは難しくても、周りの協力を得られれば中学生でもできるかもしれない」と自信が湧いた。

交流授業後に4人の生徒にインタビュー。年齢の近い先輩の取り組みを直接聞き、「自分たちにもできそうだ」と語る



参加した高校生は、「中12年間の学びをつないでいくことが必要だ。学校の学びそのものを変えていくことができた。自分が中学生の頃は外部と関わる探究はなかったのだ、彼らがうらやましい」と振り返った。

今回、交流授業に参加した横浜瀬谷高校にも話を聞いた。「探究を通じて小・中、高

同校で探究学習を主導する黒崎洋介総括教諭は、「探究を通して小・中、高

希望が丘中 8045・391・0378